

応募者	千代むすび酒造株式会社
1. 活動名	ウイスキー製造による副産物を100%再利用
2. 表彰の対象となる活動の目的	今まで100%廃棄していた、ウイスキー製造後の麦芽粕(ばくががす)を100%再利用することが目的です。持続可能な社会の実現に繋がると思います。
3. 表彰の対象となる活動内容	<p>(表彰の対象となる活動であることを確認して、チェックしてください。)</p> <p>(① 実施期間、②対象者・参加人数、③実施場所、④活動概要などを記載してください。)</p> <p>① 実施期間・・・年間を通して、麦芽粕が発生するので、通年、半永久的に続きます。</p> <p>② 対象・・・島根県雲南市企業の「株式会社熟豊ファーム」さんが100%引き取り、和牛の餌へのブレンドとして利用。</p> <p>③ 実施場所・・・副産物である麦芽粕発生場所は、千代むすび酒造。再利用の場所は、島根県雲南市の熟豊ファーム様。</p> <p>④ 活動概要・・・千代むすび酒造は、2021年1月にウイスキー製造免許を取得し、以後ウイスキー製造を行ってきました。糖化発酵後に副産物として「麦芽粕」が発生しますが、使い道がないこと、日にちの経過で腐敗が進むことから、今までは処分代金を支払い、100%廃棄をしていました。何か再利用方法はないかと取引銀行に相談したところ、島根県雲南市企業の「株式会社熟豊ファーム」様と出会いました。こちらでは和牛の肥育を行っており、麦芽粕に含まれる栄養成分バランスが非常に良いと評価をいただき、今では麦芽粕発生時に100%お引き取りいただき、翌日にはブレンド飼料として和牛の餌に使用いただいています。買い手もお喜びになること、また廃棄せずに再利用していることから意義深いものであると感じています。</p>
4. 表彰の対象となる活動の自己評価	
① モデル性	<p>(6に記載の活動において、特に他の団体等の模範となるような工夫などについて記載してください。)</p> <p>副産物の再利用は、売り手も買い手も喜んで初めて成立します。今回の事例では、麦芽粕の引き取り価格や引き渡し時期など、相手(買い手)にとって最適な条件を話し合い、提示したことが成功に繋がりました。</p>
② ネットワーク	<p>(6に記載の活動の効果を高めるために活用した、又は新たに構築したネットワーク(個人・団体とのつながり)について記載してください。)</p> <p>取引銀行である山陰合同銀行内の社内ネットワーク「本部・支店間の情報連絡機能」を活用し、各支店の担当者の方がご自身のお取引先で、麦芽粕の再利用ニーズが無いか、ヒアリングしていただき、今回の事例に繋がりました。地域で信頼のおける機関様からのピンポイントでニーズの合ったご紹介に感謝しています。</p>
③ 包摂性	<p>(6に記載の活動において、「誰一人取り残さない」の理念に則った取組であることや、多様性という視点が活動に盛り込まれていることなどについて記載してください。)</p> <p>誰一人取り残さないという観点では、何一つ無駄にしないという考え方に繋がると認識しており、この事例にある100%廃棄していたものを100%再利用することは大変意義深いものであると思料します。</p>
⑤ 統合性	<p>(6に記載の活動において、経済・社会・環境の分野における関連課題との相互関連性・相乗効果や、統合的解決の視点について記載してください。)</p> <p>和牛の肥育には毎日同じバランスの栄養分を含んだ餌などが重要と言われており、求める栄養バランスに近い「麦芽粕」は本当に喜ばれており、売り手、買い手がWin-Winとなる関係を構築できている。</p>
⑥ 継続性	<p>(6に記載の活動において、活動を継続していくために努力している点(例:財源の確保など)、及び今後の計画について記載してください。)</p> <p>2021年よりウイスキー製造を開始し、毎年一定量のウイスキーの製造を計画しています。製造が続く限り、副産物である「麦芽粕」は発生しますので、本事例は今後も継続していきます。</p>
<p>その他、6に記載の活動又は運営主体の特徴、取組のPR等を記載してください。</p> <p>千代むすび酒造は日本酒のみならず、焼酎、リキュール、ジン、ウォッカ、ウイスキー、ノンアルコール糀甘酒など発酵商品の事業領域の中で、幅広い商品ラインナップを製造しています。その中で、日本酒、焼酎、ジン、ウイスキーなどの製造工程において酒粕、焼酎粕、ジンのボタニカル粕、ウイスキー麦芽粕などの副産物が発生しており、副産物の有効利用、再利用は永遠のテーマとなっています。今後もその観点から、様々な方、団体との連携を模索していきます。</p>	